

2020/02/26(水)13:29

授業科目名	生命倫理と医療倫理		授業形態	演習
英語科目名	Life Ethics and Medical Ethics		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	長沼 淳		ナンバリング	4501
科目担当者				
長沼 淳				
授業の概要				
<p>医学医療の発展に伴い、多くの人たちがその恩恵にあずかり健康に暮らせるようになってきた。他方、その新技術は、既存の価値観では対応しきれないような事態を生みだしている。再生医療や生殖補助医療は多くの人に福音がもたらすが、他方人間存在の根幹に関わる問いを投げかけ、それに対して医療の発展に制限を設けるべきだと主張もなされている。日常的な医療の場面でも「患者主体の医療」がうたわれ、われわれ一般市民は自律した患者でいることが求められるようになってきた。新技術は際限なく進歩して構わないということはないが、かといってわれわれも旧態依然としたままでいらなくなってきており、価値観の変更や態度の修正などは避けて通れないのが現状だ。本科目では、一般市民として自律的に医療や生命科学の発展と向き合うとはどのようなことなのかについて考える。具体的には現代社会における医療分野や生命科学分野で生じている問題を取り上げ、問題点及び自らの見解をまとめ、グループワークにて議論し、理解を深め、グループ内もしくはクラス内で発表を行うといった一連の演習形式により実践的な学びを提供する科目とする。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理や生命倫理の対象を理解する。 2. 医療や生命科学において発生する倫理問題を説明できる。 3. 一般市民としてその問題にどのように向き合い、対処するべきかの基本的な課題を理解する。 4. 実際にその問題に立ち会った際の立ち居振る舞いを想定できる。 				
成績評価方法				
授業態度(10%)、授業内提出課題(10%)、期末試験(80%)を基本に総合的に評価する。2/3以上の出席を成績評価の前提とする。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>ニュースなどで、医学医療、生命科学などの分野で生じている問題について、倫理的に考えるとどのように解釈できるかを考え続ける姿勢を持ってほしい。そのような問題意識を前提に、倫理的に考えるとどのようなことなのかを理解できるようになってほしい。「倫理学」の講義と関連させて授業を展開するので、「倫理学」を受講することが望ましい。</p>				
テキスト・参考書				
テキストは用いない。参考図書は授業内で適宜指示する。				
オフィスアワー				
授業の前後1時間程度				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
小テストは授業内に返却する。 期末テストは次学期に返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	長沼 淳	オリエンテーション ・授業の進め方、評価方法などについて説明する。 ・倫理学そのものについての概説	【予習】シラバスをよく読んでおくこと(90分) 【復習】授業の展開予定を確認し、授業に臨む基本姿勢を再確認しておくこと。(90分)	
2	長沼 淳	医療倫理の基本(1) ヒポクラテスの誓いとジュネーブ宣言	【予習】事前配布プリントを確認しておくこと(90分) 【復習】医療倫理の起源とその現代的意義を整理しておくこと(90分)	
3	長沼 淳	医療倫理の基本(2) 患者の権利とインフォームド・コンセント(IC)	【予習】事前配布プリントを確認し、自分のIC経験を書きだしておくこと(90分) 【復習】患者として医療の臨むときに準備しておくべき心構えを整理する(90分)	
		医療倫理の基本課題(1)	【予習】事前配布プリント確認し、自己決定について書き出しておくこと	

2020/08/18(火)10:06

授業科目名	ライフサイクルの理解～誕生から発達・老化まで～		授業形態	講義
英語科目名	Understanding for life cycle		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	加藤 洋一		ナンバリング	4502
科目担当者				
市村 浩一郎、羽鳥 浩三、平澤 恵理、加藤 洋一、石島 旨章、田村 好史、ニヨンサバ・フランソワ、白山 芳久、鈴木 宏哉、岩崎 友弘				
授業の概要				
健全な成人になるためには、発達期のそれぞれの時期に必要で十分な身体活動が求められる。一方、身体機能の各要素によって、発達の時期ならびに速度が異なることから、当該要素の発達に即した運動の選択が重要になってくる。また、加齢により様々な疾患を発症しやすくなり、それに対する予防的な取り組みも重要になってくる。そこで、誕生から老化までのライフサイクルに生じる身体的特徴を概説するとともに、各年齢期における運動や栄養の重要性について論じる。				
授業の達成目標				
生涯を通じて健康でアクティブな生活を送るためには、発達の各段階において運動実施が必要である。すなわち、20歳までの成長期、それ以降の加齢期において、最も適切な時期に科学的根拠に裏付けられた運動実施が求められる。ここでは、加齢により生じる病気の知識と、それらの運動をどのように実施すべきか、その考え方と科学的な根拠を教授したい。				
成績評価方法				
担当講師より講義中の課題が提示された場合は、その課題の評価を定期試験の結果に加味して最終評価を行う。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
この授業の理解を深めるために、「人間と社会の理解」の授業科目群と合わせて受講されると、さらに理解が深まり、人間の発達を総合的に理解できるものと期待される。また各回、特色ある講義のため、授業内容項目について不明な項目はインターネット等で調べておくことが好ましい。復習のポイントなどは担当教員からの指示に従いましょう。				
テキスト・参考書				
講義時配布テキストを使用				
オフィスアワー				
専任教員は各オフィスアワーを確認すること、その他の非常勤等の教員は原則授業の前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	市村 浩一郎	受精・発生・ライフサイクル、母児の健康に及ぼす出生前後の因子	<p>個体発生は系統発生を繰返す、といわれることがある。本章では、人類誕生の歴史とともに、動物としてのヒトのからだの特徴について概説し、生涯を通じて健康に過ごすための身体活動の重要性について概説する。</p> <p>【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分)</p> <p>【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)</p>	
2	市村 浩一郎	形態的発育・成長	<p>子どもは大人のミニチュア版ではないといわれるように、成長の過程で長育、量育、幅育のそれぞれが同じ割合で発育していくものではない。本章では、身体各部の発育の過程を提示するとともに、それらと身体能力の発達との関係について概説する。</p> <p>【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分)</p> <p>【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)</p>	
3	羽鳥 浩三	手指動作・歩行の習得	<p>手指は脳の出先器官ともいわれ、その機能は幼児期に急速に発達する。これはヒトの局所の神経・感覚機能の発達に依存する。本章では、手指の発達時期、ならびに動作習得の意義について概説する。</p> <p>【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分)</p> <p>【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)</p>	
4	岩崎 友弘	身体機能の発達、発達段階別に見た成	<p>この世に生を受けて間もなく、ヒトは臥位から立位へと大きな姿勢の転換を強いられる。この時期、神経系の発達とともに、身体機能や認知機能、情緒も著しく発達する。本章では、乳幼児期を中心とした</p>	

		長と発達	小児期における成長・発達とその評価方法について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
5	平澤 恵理 Aurelien Kerever	神経系の発達(運動・感覚・言語機能の発達、知的・社会的発達)	立つ、歩く、走る、跳ぶなどの基礎的能力を習得した後に、全身動作が急速に発達する。これは全身を制御する脳・神経系の機能が発達する時期と一致する。本章では、このような機能がこの時期に発達する要因について、またこの時期に全身動作を習得することの意義について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
6	加藤 洋一	身体のねばり強さの発達	身体のねばり強さは、全身持久力で評価され、その能力は身長の間年発育量がピークに達するあたりで急速に向上する。本章では、全身持久力が呼吸循環機能の発達に大きな影響を受ける要因について、またこの時期にねばり強さを習得することの意義について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
7	田村 好史	身体の力強さの発達	身体の力強さは、筋力で評価され、その能力は骨格の成長が完成に向かう頃に急速に向上する。本章では、筋力が筋の特性に影響を受ける要因について、またこの時期に力強さを習得することの意義について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
8	平澤 恵理	ライフサイクルと身体の変化(1)脳の老化	青年期以降、加齢に伴って脳機能・形態は変化する。その結果、認知症を始めとした疾患を高齢者では発症する。本章では、加齢に伴う脳形態・機能の変化について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
9	加藤 洋一	ライフサイクルと身体の変化(2)心肺機能の老化	老化期にみられる身体の生理的機能の低下は、体力の低下や日常動作の変容を引き起こす。本章では、加齢に伴う体力・運動機能の変化、ならびに起立動作、歩行動作などの日常生活動作の変容について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
10	石島 旨章	ライフサイクルと身体の変化(3)運動器の老化	加齢による低下で、QOLや社会的問題に直接繋がりがやすいのは運動器の老化である。本章では、加齢に伴う運動器の老化のメカニズムを解説し、高齢者の転倒問題について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
11	田村 好史	ライフサイクルと身体の変化(4)代謝の老化	加齢に伴って基礎代謝量は減少する。この基礎代謝量の減少を起点として肥満が助長され生活習慣病へと進展すると考えられている。また、血糖値を下げるインスリン分泌も加齢と共に低下する。本章では、中高年の代謝と生活習慣病等の健康問題との関係について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
12	ニヨンサバフランソワ	ライフサイクルと身体の変化(5)免疫機能の老化	中高齢者では若年者に比較して感染症にかかりやすく治りにくくなる。これは、老化により免疫機能が低下することが原因と推測されている。本章では、免疫機能が加齢により低下するメカニズムやそのリスクについて概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
13	白山 芳久	高齢化社会の問題点と社会的施策	今後超高齢化社会を迎える我が国では、寝たきり、認知症など様々な社会的な問題が顕著となるのは間違いない。また、グローバルヘルスの視点でも、今後高齢化社会は切実な問題となっている。本章では、それらの諸問題に対する社会的施策について概説する。 【予習】授業内容について自分なりに調べておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)

